

小学校 社会科 部会

部会長名 川崎小学校 校長 高瀬 光一

実践者名 津野小学校 教諭 稲富 博明

1 研究主題

言語活動の充実をめざす社会科学習指導法の研究
～資料の活用をめざした話し合い活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

昨年の東日本大震災に見られるように、地震国日本では、いつどこで地震が起きてもおかしくない状況にある。あわせて世界的な金融不安の中で先行きの見えない経済状況にあり、誰もが一刻を争う情報を得たいところである。

こうした情報化社会の中で、ただ受け身的に情報を一方通行的に何の疑問も持たずに受け入れるだけでは、自己実現は困難な時代になってきている。また、誤った情報を信じたり、他の人との関わりをつくれなかつたりすれば、生きることさえ危ういことになる。東日本震災後、人との絆が強く見直されている。

そこで、多くの情報の中から自ら真に必要な情報を取捨選択したり、自分のものとして根拠をもって説明したりする力を身に付けていくことは、これからの時代をいくぬく力として必要であると言える。

(2) 学習指導要領から

社会科では、各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの言語活動を重視しており、実際の指導にあたっては次のような学習が想定される。

観察・調査や資料活用を通して必要な情報を入手し、的確に記録する学習

それらを比較・関連づけ・総合しながら再構成する学習

考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことにより、お互いの考えを深めていく学習

(3) 地域・学校の実態から

本校は、山間へき地における小規模校である。上下級生とも大変仲が良く、お互いのことをよく理解し合っている。保護者は、学校教育に対して大変協力的であり、また、地域行事等が盛んで多くの子どもたちも参加し、まさに地域の大人の姿を見て育っている。地域全体で社会の一員であることの自覚を培っていったり、伝統を引き継いできている風土もある。

だからこそ学校で、少人数であるが故に資料を活用して説明したり、社会的事象の意味を解釈したりすることを意識し、説明できる力をつけることを期待しており、これまでに地域で引き継いできたことを後世に伝えていく力をつける必要がある。

(4) 児童の実態から

情報化社会の進展にともない、子どもたちの身の回りは様々な情報があふれ、多くの情報通信機器類が取り囲んでいる。すでに就学前からそのような家庭環境の児童もあり、テレビやゲーム機器などを使いこなしたり、家庭内でもパソコンや携帯端末を使用している保護者の姿を見ている。また、5年生までにそれぞれの子どもたちはパソコンに触れ、文字を打ったり、お絵かきをしたりしてきている。さらに、デジタルカメラやカメラ付き携帯電話で写真を撮ったり、写されたりした経験も豊富である。他方、パソコンや携帯電話でのインターネット利用に関しては、大人の目の届く範囲での使用ということで活用されている実態である。主に、調べ学習の方法としてインターネットで検索し、必要な情報を得ている。また、メディアとの付き合い方、関わり方については各家庭に任されている。

2010年4月の内閣府による「青少年のインターネット利用環境実態調査」の結果では、以下のものであった。

- ・携帯電話は、小学生の約2割が所有、そのうち、約8割がインターネットを利用している。
- ・パソコンの使用率は、小学生の約8割で、そのうち、約7割がインターネットを利用している。
- ・携帯電話の使用についてはルールを決めている家庭は、小学生の約6割、パソコンの使用についてルールを決めている家庭は、小学生の5割以上である。

本学級児童は、携帯電話は所持していない。パソコンは主に学校での学習としての活用が多く、家庭で個人での使用は少ない。ゲームやテレビは、曜日や時間などのルールを決めたり、選択をしたりして使用している。したがって、家庭内の教育に任せられている部分が多い。情報の収集については、メディアの活用の他に地域での関わりなど相互扶助的なものがあり、助け合うことができている。

3 主題の意味

(1) 「言語活動の充実をめざす」とは

言語活動の充実をめざすとは、調べたことや考えたことを説明する力を育てるようにすることである。特に、調べたことや社会的事象の意味について考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し、説明できるようにすることが大切である。

(2) 「資料の活用をめざした」とは

問題解決学習や体験的な学習の中では、学習問題を吟味させたり予想・学習計画を立てさせたりして、調べる際には自分で調べたことを読み取れる力をつけていく必要がある。

また、資料から何を読み取らせるかとともに、何を見てくるか、何を聞いてくるかと言った調べ方や資料の読み取りの技能を育てることが大切であり、それによって自分の考えの根拠とすることができるのである。

(3) 「話し合い活動」とは

話し合い活動は、言語活動の充実のための手段であって目的ではない。話し合い活動により、子ども一人ひとりに社会的な見方・考え方を育てることが大切である。

そのために、資料を根拠に自分の考えを作る、話し合いによって交流する、全体としてのまとめをするといった学習過程そのものを大切にすることが必要である。それは、自分の考えをわかりやすく、簡潔に説明し、伝えることであり、自分の言葉で学習のまとめをすることである。

4 研究の目標

社会科学習において言語活動の充実をめざすための方策として、資料の活用を位置づけ、読み取り、課題解決するためにそれらを活用し、話し合い活動の中で大切な点を探っていくための支援のあり方という視点から探っていく。

5 研究の仮説

社会科において、学習活動の中に資料を活用する場面を位置づけ、資料の読み取りや課題解決のための話し合い活動を通して、資料に基づく根拠をもった説明をしていけば、充実した言語活動によって自分の考えを深める学習活動を展開できるであろう。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元名 「くらしを支える情報」

(2) 単元の目標及び指導計画

〔目標〕

放送、新聞などの情報産業が様々な情報を提供し、自分たちの多くがそれらを多方面で利用していることについて、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。
(思考・判断・表現)

情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている医療、防災、福祉、教育などの事例について資料を有効に活用したり、インターネットで情報を収集したりして調べ、それらのはたらきが、人々の生活を向上させるために利用され、自分たちの生活にしても様々な影響を及ぼしていることについてとらえることができるようにする。
(技能)(知識・理解)

情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をしようとする能力や態度を身につけるようにする。
(関心・意欲・態度)

〔指導計画〕(総時数 13 時間)

主な学習活動	時	評価基準
1 日常生活の中で得られる情報やそれを入力する方法についての話し合いを通し	1	情報について興味や関心を持ち、意欲を持って調べる計画を立てている。

<p>て、単元の見通しを持ち学習計画を立てる。</p>	<p>(関心・意欲・態度)</p>
<p>2 情報の中に生きる</p>	
<p>(1) 緊急地震速報が届く仕組みを調べることなどを通して、情報が自分たちの生活に及ぼす影響について調べる。</p>	<p>1 情報が生活と密接に関わっていることについて理解している。 (技能)(知識・理解)</p>
<p>(2) テレビのニュースが伝えられるまでの様子を調べ、情報を伝える放送局のはたらきや、情報と自分たちの生活との関わりについて考える。</p>	<p>1 ニュースが伝えられる仕組みをまとめ、情報は、人と人との関わりを通して作られ、伝えられることに気づいている。 (思考・判断・表現)</p>
<p>(3) 日常生活の中で利用している情報について話し合うことを通して、様々な方法で情報を入手し、役立てていることについて考える。</p>	<p>1 情報に囲まれた生活の中で情報を活用し、役立てていることに気づいている。 (技能)(思考・判断・表現)</p>
<p>3 情報ネットワークを生かす</p>	
<p>(1) 情報ネットワークを利用した図書館サービスについて調べる。</p>	<p>1 情報通信技術の利便性に気づき、情報ネットワークについて調べる意欲を持っている。(技能)(関心・意欲・態度)</p>
<p>(2) 情報ネットワークを生かした他の例の取り組みについて調べる。 医療とインターネット 防災とインターネット 福祉とインターネット 教育とインターネット</p>	<p>1 分野別にインターネットが生かされていることをまとめることができる。 (思考・判断・表現)</p>
<p>4 情報を上手に使いこなす</p>	
<p>(1) 情報を発信する側の責任やマナー、受信する時の注意などインターネットの使い方について話し合う。 (本時)</p>	<p>1 情報を発信する側の責任やマナー、受信する時の注意などインターネットの使い方について問題意識を持っている。 (関心・意欲・態度)</p>
<p>(2) 新聞記事の見出しを比べ、その違いをもとにした話し合いを通して、これからの社会の中で情報が果たす役割を考える。</p>	<p>1 情報の受信者や発信者として、情報の与える影響に気づいている。 (思考・判断・表現)</p>

(3) インターネットによる人と社会との結びつきについて話し合い、それらが自分たちの生活に及ぼす影響について調べる。	1	社会や経済活動におけるインターネットの活用事例について意欲的に調べている。 (関心・意欲・態度)
(4) 情報化社会で生きていくためには、どのようなことに気をつけ、活用していけばよいのかについて、自分の考えをレポートに書く。	1	インターネットの特色をまとめ、自分の生活を振り返って「インターネットチェックシート」を作成することができる。 (思考・判断・表現)
5 学習したことを振り返り、レポートにまとめたことを友達と見せ合い、意見交換する。	3	インターネットや本で調べた資料や写真・グラフなどを効果的に扱いながら、レポートに表すことができる。 (技能)(思考・判断・表現)

7 指導の実際

(1) 主眼

インターネットの使い方について話し合うことを通して、発信する側の責任やマナー、受信するときの注意などについて問題意識を持つことができるようにする。

(2) 授業仮設

経験をもとに自分の考えを出したり、資料をもとに意味を話し合ったりして交流すれば、問題意識を持ち、決まりを持つことの大切さに気づくであろう。

(3) 準備

教師：パソコン、資料「青空」

児童：教科書、ノート、国語辞典、パソコン

(4) 展開

段階	学習活動	具体的な指導・支援 評価の視点
つかむ	1 これまでの学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。	パソコンを使ってできることを便利な点を中心に確認する。 各自ノートに3つ以上書けたか。
	めあて パソコン(インターネット)を使うときには、どんなことに気をつければよいのかについて話し合おう。	
調べる	2 インターネットを利用するときの注意点を讀んだり、インターネットを使うときにこまったことの例から何が大事なのか調べ、自分の考えを持つ。	インターネットで使い方の注意やこまった事例を検索させる。【Yahoo!kids】「利用4ヶ条」として確かめる。

	<p>3 資料「青空」を視聴し、自分の考えを持つ。</p> <p>4 調べたことをもとにしての自分の意見や感想を発表する。 ・情報の受信者と発信者の立場で整理していく。</p>	<p>「青空」の「インターネット掲示板」を視聴させ、感想を書かせる。 ・初めて知ったこと、インターネットの利用に仕方に絞って書かせる。 ・自分だったら、どうか、どうするのかといった視点でも書いてよいことを知らせる。</p> <p>自分の意見や感想を述べさせ、その根拠となる資料を示す。 話し合う中で、何が大切なことが交流させる。 受信者の視点と発信者の視点があることに気づいたか。 相手のことを考えて、利用するという内容が書かれているか。</p>
	<p>根拠を持った説明の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて話す。(だから、 と思います。) (それは、 です。なぜなら、だって～だからです。) ・絵や図を指し示すなど活用して話す。 (からは、～がわかりました。) (例えば、 にあるように、ぼくだったら(も)～だと思います。) 	
<p>まとめ</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>私たちは、インターネットを使うとき受信者や発信者の立場に立って、内容に責任を持つ必要がある。</p> <p>6 次時では、それぞれの立場に立って、具体的な事例について、調べていくことを知らせる。</p>	<p>注意点という「きまり」にして、みんなで気をつける必要性を意識させる。</p>

8 研究のまとめ

授業のつかむ(導入)段階で、パソコンの利用方法について便利なことを一人3つずつ書き出すという手法は、これまでの経験から想起させるのに有効であった。想起できない児童に対しても、挿絵をもとにパソコンでどのようなことができるのかをイメージできるの

で有効であったと思う。また、導入段階において便利な点に触れさせることで、その逆の部分にあたる注意点について学習するというめあてを持たせやすかった。

調べる段階では、パソコンを使うマナーの段階も含めて、これまでの約束事を思い出させながら、本で調べたり、パソコンの【Yahoo kids】のサイトで書かれてあることを見たりした。そして、基本的なインターネットを利用するときの注意点「4箇条」をメモしており、それはどうしてなのかを問うてみたり、その子の考えはどうなのかを探ったりした。一人調べを行った後に続き、DVD資料「青空」の中から「インターネットの掲示板」を視聴した。そして、ポイントとなる最後の問いに対して、それぞれの考えを持たせた。すると、「インターネットは勝手に開かないようにする。」「気楽に個人情報を流さないようにしたらいい。」などの意見を持っていた。【写真1・2】

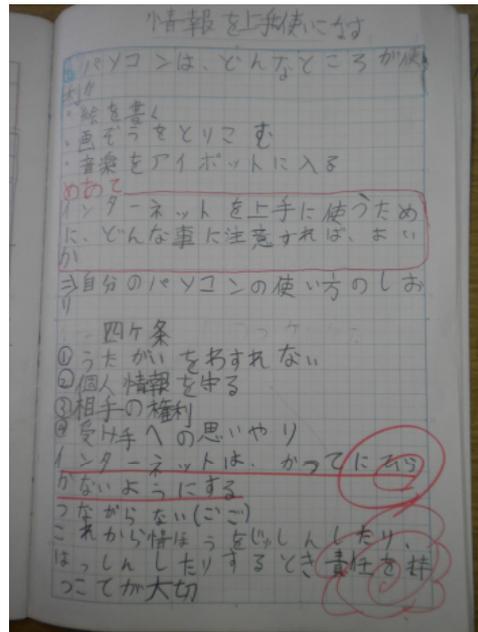


写真1

考える段階では、まず、一人一人の調べたことについて発表させ、基本的なインターネットを利用するときの注意点「4箇条」の確認をした。そして、その根拠となる資料に書いてあることが同じようなことであることに気づいたので、その点に絞ってその理由はどうしてか考えると、「みんなが、相手のことを考えなければならない」「最低限のきまり」と答えた。また、「インターネットの掲示板」についての感想や意見について発表し、どうしてこのような問題が起こったのか考えた。その中で、情報というのは受信者である私たちが防げるものと、発信者として気をつけなければならないものがあることを知らせた。どちらの立場に立つかによって、より身近にインターネットを利用するときの問題意識を持つことができるのではなかろうか。

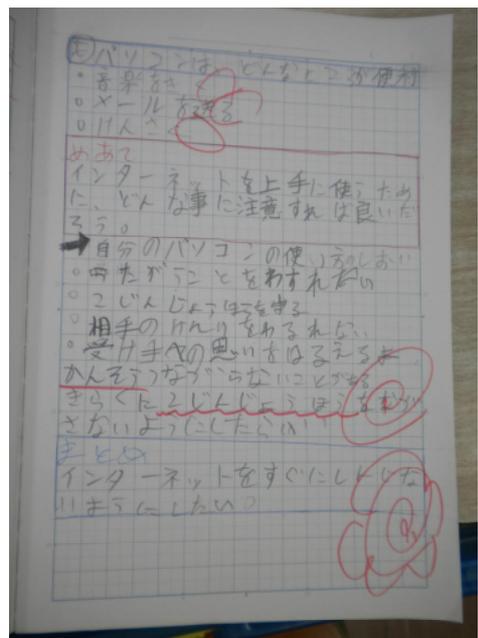


写真2

まとめる段階では、子どもの問題意識を大事にしながら、発信者・受信者の立場になってインターネットを利用する時の大事な点と「きまり」の必要性について確認していった。すると、「情報を受信したり、発信したりするときは、責任を持つことが大事」「インターネット(の情報)をすぐに信じない方がいい」などとまとめた。【写真1・2】

そして、今後は情報を生かす主体者として、どのようにインターネットとつきあっていけばいいのか考える学習を続けていくことを伝えた。

資料の活用を通した各段階で、「書くこと」「資料からメモすること」「考え説明すること」「まとめること」を意識し、話し合ったことで、共通点を

見つけ出したり、相手の立場に立って考えることに気づいたりしたと考えられる。

9 成果と今後の課題

成果

誰もがができる多様な考えを限定して引き出すところ(導入段階)から学習に結びつけていくことで意欲を高めることができた。

教科書やパソコン資料などを活用して調べ、話し合いを通して共通点を見つけることでそのきまりの必要性に迫ることができた。

資料を調べ、根拠を持った自分の考えを持つことができた。

インターネットを利用するときに自分が大事にしようと思うことをまとめることができた。

課題

多様な意見が出にくいいため、与えられた資料を読み取ることに重点を置き、さらに視点を広げたり、気づいたことを大切にしたりすることが必要である。

調べる段階と考える段階の時間配分を考える必要がある。

根拠を持って説明する力をつけるための発問や指示を精選する必要がある。

結論 自分の考え とその理由や根拠 資料の活用 をセットで表現するための支援を考える必要がある。～国語科との関連を意識した取り組みなど

〔参考文献〕

- | | |
|-------------------|-----------|
| 「小学校学習指導要領解説 社会編」 | 文部科学省 |
| 「子どもの学力をつける学習評価」 | 北 俊夫著 文溪堂 |
| 「情報モラル教育実践事例集」 | |